

江戸巻

特別
ル4
6327
1





江戸 薩 序



竊又松門と号して... 年月と送系事... 江戸府... 柳今此... 其政... 乃... 其鏡... 之... 亦... 武家... 猶... 國... 唯... 之...

324

唯徳人の郷をま移けし人なりさうそ人の格をけ
まんのより家大方の順路を知りてさうあつひの向
りひ家と虫物しつちあふは意路といふくより言
同あつえさうと書付られし是は移りてさう色角
流の愚癡しつて文字と得されし移してさうさあ
云々

治まれば時とや知りて江戸すま
さくけり知ると可成

江戸雑目録

物巻

津城之物并年中津規式之事

方角順路

進子下馬より鏡龜橋より盤橋林田河門

まの橋河門竹橋河門稚子橋河門清水河門西本

河門橋河門河門關元河門乃目屋一き付事

新之河より石川橋より橋本橋河門橋本橋河門

とらや橋河門橋本橋河門和合橋河門とらや橋河門

和合橋河門より旧橋河門の路遠河門より

河一き付事

橋河門より日比谷河門の上下河津成橋河門虎

河門より河門の河門の河門の河門の河門の河門

橋河門より河門の河門の河門の河門の河門の河門

二巻目

頼河川のふた級以上の溜池尻の川のほとり内
御みの付つ事こと

新あらたヶ岡が乃の事こと

山王さんおう権けん現げん乃の事こと

頼河川たのがわの川がわの牛うし込こ込この川がわの
番ばん所しよ乃の事こと

田た安あ乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

御みの付つ事こと

三巻目

新あらた乃の事こと

二ふた保たも乃の事こと

頼河川たのがわの川がわの牛うし込こ込この川がわの

之内のうちに寺てら社ぢや内うち屋や敷しき乃の事こと

新あらた乃の事こと

三さん保たも乃の事こと

頼河川たのがわの川がわの牛うし込こ込この川がわの

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

御みの付つ事こと

四巻目

頼河川たのがわの川がわの牛うし込こ込この川がわの

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

相あ生せい乃の事こと

増上寺之事

神明之事

兜宿由來之事

五巻目

金沢藩公家別荘にて合致新堀と浪々^{あさひ}後府一平松

白旗村六中松目黒村高繩子^{たづな}まき〜内寺社

御^ごしき河分之事

大佛^{おほぶつ}再^{また}同^{どう}魔^ま堂^{どう}之事

水月^{すいげつ}観^{くわん}音^{おん}堂^{どう}之事

池上本門寺之事

目黒不動明王之事

六巻目

高坂より善山宿長老^{ぜんざう}丸^{まる}流^{りゅう}屋^やと色^{いろ}権^{けん}田^{でん}原^{げん}并

河^か原^{はら}屋^や近^{ちか}色^{いろ}の^のこと〜内寺社^{うちでら}地^ぢ内^{うち}屋^や後^ご河^か分^{ぶん}

水^{みづ}川^{がわ}之^の河^か分^{ぶん}之事

河原より日夜宿一^{いち}宿^{しゆく}と色^{いろ}二^に平^{へい}橋^{はし}と〜内寺社

地^ぢ内^{うち}市^{いち}者^{もの}より大^{だい}久^く保^ぼま〜内寺社^{うちでら}地^ぢ内^{うち}屋^や後^ご

河分之事

七巻目

牛^{うし}込^こらうらんと橋^{はし}つらうらんの橋^{はし}小^こ口^{くち}向^{むか}国^{くに}口^{くち}

ありて南^{みなみ}々^々川^{がわ}田^{でん}之^の保^ぼらうら〜子^こ孫^{そん}向^{むか}土^{つち}塚^{づか}村^{むら}

中^{なかつ}々^々内^{うち}寺^{でら}社^{しゃ}地^ぢ内^{うち}河^か分^{ぶん}之事

者^{もの}街^{まち}つとら〜之事

完^{かん}八^{はち}まん乃^の社^{しゃ}之事

八巻目

小^こ石^{いし}川^{がわ}乃^の付^{つけ}りらんと橋^{はし}つらうらんの橋^{はし}小^こ口^{くち}向^{むか}国^{くに}口^{くち}

まゝの村^{むら}より田^{でん}野^の司^し若^わ東^{とう}とら〜乃^の橋^{はし}高^{たか}と浪^{なみ}

〜と徳^{とく}通^{とう}院^{いん}を^を名^なと^と河^か分^{ぶん}之事

地^ぢ内^{うち}河^か分^{ぶん}之事

目^め白^{しろ}不動^{ふどう}明^{めい}王^{おう}之事

傳通流之事
白山権現之事

九卷目

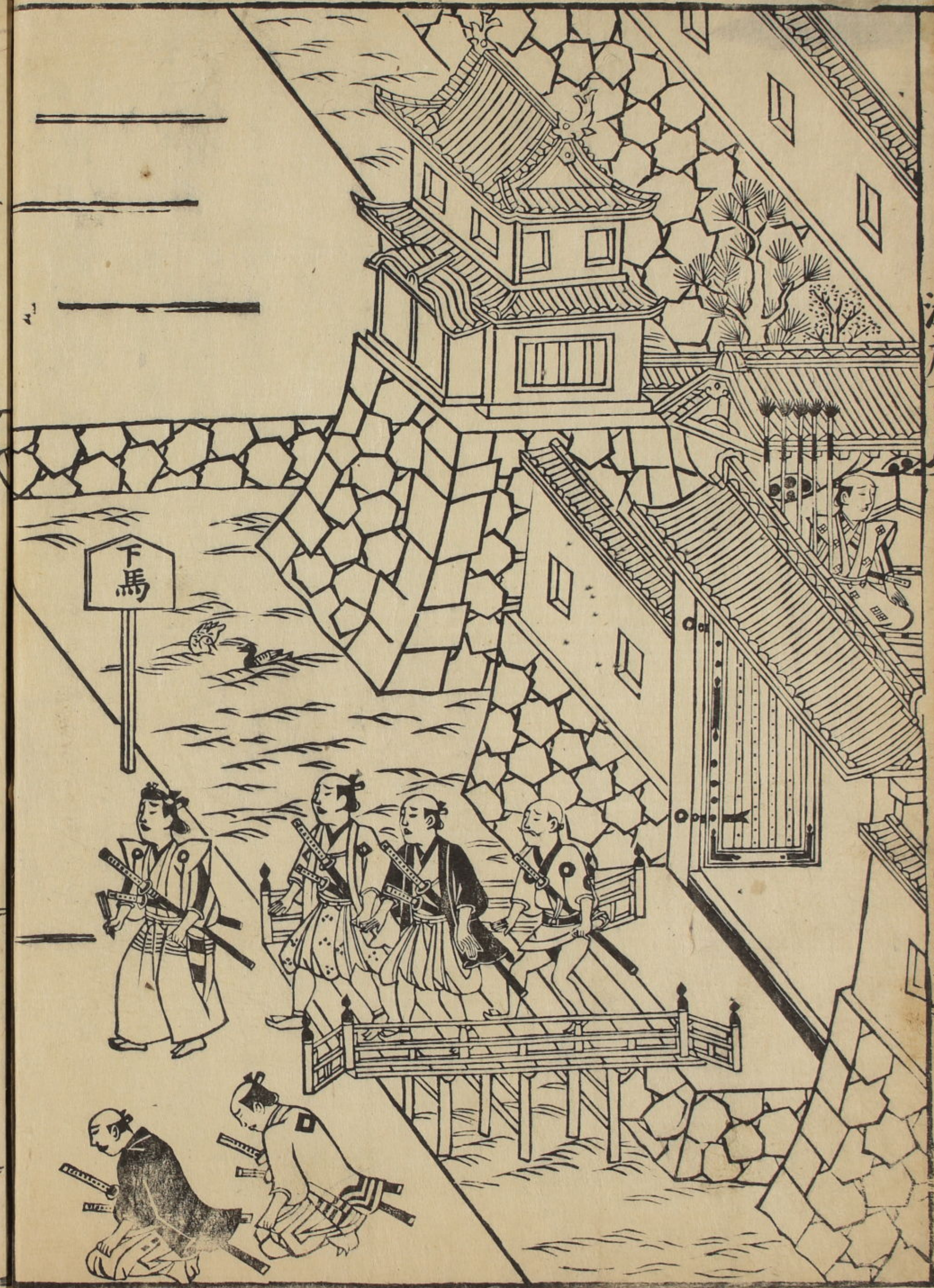
多田橋より神田畑と橋並に橋和泉橋新交橋
浅草と名田下名田中と橋千代本新田
あはれり田島村長里村王子深飯とて白神社
地内所々々所々々
神田畑神乃々々
湯嶋天社乃社々々
富士権現乃々々
上野東叡山之事并是乃是乃社見記
去々乃他并々々乃々々
感慈寺之事

十卷目

浅草見付分新交橋功教山之宿今之橋山宿
橋場小塚原湯田川之邊とて原村まてとて白神社
地内所々々所々々
後原寺親善堂乃々々
地内池々々乃々々
駒形馬込親善乃々々
合新山待乳山乃々々
新原原城所々々
新泉寺付妙龜山々々

十一卷目

西園橋より北本庄之分
その目橋より白目橋新徳川口小松川口深和橋
業平橋牛橋新と村柳橋村々々村別橋村
寺橋村湯田川高西口湯田村々々々内寺結橋
原安町付々々々
湯田川付本母寺々々



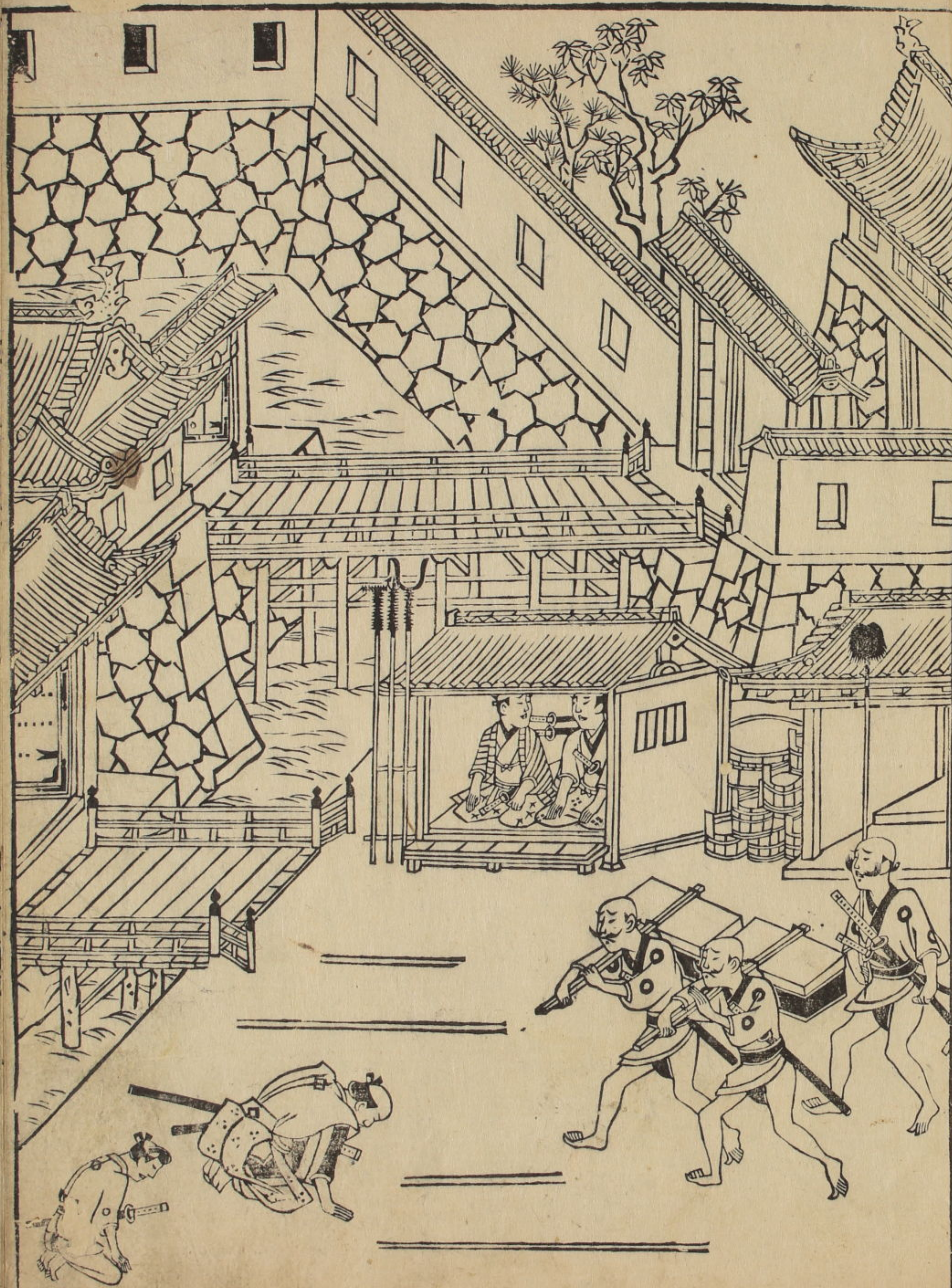
室陽乃以秋後涉江河の十月節子乃後ハ申乃下別涉着代
 大和を以て下 在城を以て一子の門くより中より
 甲の...
 奮登よ出河あり抄り...
 作付られ也 毎月朔の十日廿八日結大名の外者外物及後
 木沙出結を急傍 涉江城ありて後日如夜涉中允賢く

或は乃出入りけを此に...

凡太慶乃涉江の方平條所也 林外より東乃方之八河...
 本據所 鉄炮津 女木之石 其裏為より...
 是海岸後あり...
 多田部目若干...
 核回を宿之下あり...
 北十余里大...
 乃神社佛園...
 畏怯あり...
 て...
 先を...

御本丸...

進下馬より...
 一進下馬より...
 乃乃在角...
 但馬...
 乃乃在...
 小...
 者...
 後...
 竹田...



高橋の如くして大橋を築き置けり板倉源政の如くは秋田平治の如くは
右の大雲院法も如く松平大橋の如くは河内より赤松源氏に依り
ありて是れを以て河内乃東あり
一書に曰く松平と云ふは河内と云ふことと云ふ人の如くは右大雲院法も如くは
大田原の如くは河内丹波の如くは河内と云ふことと云ふ人の如くは河内乃東の如くは
河内乃東の如くは河内乃東の如くは河内乃東の如くは河内乃東の如くは

江戸雑初巻終

